

JAとの連携による学校給食での地場産物の活用促進について

くまがや
埼玉県熊谷市

埼玉県熊谷市では、新しい学校給食センターを整備するに当たり、学校給食への地場産物活用を検討していました。しかしながら、学校給食向けの納入業者が限られていたこともあり、安定した地場産物の供給体制に課題がありました。

そこで、令和5（2023）年度に、地産地消コーディネーター派遣事業を活用し、安定的な地場産物の供給体制を構築するための取組を実施しました。

具体的には、地産地消コーディネーターが間に入り、教育委員会、給食センター、農政部局等の関係者と話し合いを実施することで、これまで学校給食センターと接点のなかったJAが納入業者として参入することとなりました。

JAと連携したことで、学校給食に地場産物を安定的に供給する体制を構築できたこと、また、給食費の改定や食材費高騰分を公費で補助することで適正な給食費を確保し地場産物を優先的に使用することができるようになったことにより、市内産野菜の使用率（金額ベース）も前年度の4.7%から8.4%（令和6（2024）年11月時点）へ約1.8倍に増加する等、学校給食での地場産物の活用促進につながる結果となりました。

また、JAとしても、学校給食用に地場産物を使用する取組を始めたことを生産者に周知することにより、取組に賛同した生産者が学校給食向けに新たに作付けを増やすなどの取組も見られています。

今後も、熊谷市はJAと連携し、使用する地場産物の品目や量を増やしていくことを検討しており、地産地消コーディネーターの派遣を契機に地場産物活用の取組がより一層広がっています。



JAと生産者の意見交換の様子



熊谷市産食材を使用した給食